

エピソード15

特別支援学級を学びの場として
保護者と一緒に考える時に
大切なことはなんでしょう



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の熟年の先生に、特別支援学級での学びについて、保護者とお話をする場合をお聞きします。

通常学級で学んでいる子どもの保護者と特別支援学級での学びについて、お話をするのは、とてもデリケートな問題です。

それには時間がかかります。すぐに動き出さず、少し待った方がいいと思うことも多いのです。





先生の考えを聞かせてください。

子どもは家庭の中で生きています。そして学校があります。子どもは、学校と家庭を行ったり来たりして、両方で生きています。

でも学校と家庭が分断していると、学校での子どもの困り感を、保護者が具体的に理解できない場合があるのではないかと思います。





保護者と一緒に子どもの困り感を考えるようにするには、どうしたらいいですか。

学校での困り感を保護者と一緒に考えるには、家庭での親の困り感が、一つのバロメーターになるのではないかと思います。

学校が、保護者が困っている面にアプローチするところから、始めていければよいと考えています。





保護者と一緒に考えられるようにするために、どんな配慮が必要だと思いますか。

保護者の感情にも配慮が必要だと思います。特別支援学級のレッテルを張られるんじゃないか、将来は大丈夫か、いじめられないか、など保護者には漠然とした不安がたくさんあるのです。

学校は、保護者のそういった不安に寄り添う姿勢が必要なのだと思います。





学校としてできることは、
どんなことだと考えていますか。

学校は、今できる手立てをきちんと提示して、
保護者の不安が取り除かれ、将来の見通しが
持てるようにすることが必要だと思います。

特別支援学級の様子を参観してもらうことも
大切です。子どもたちが、自信を持って学習する
姿を見ることで、子どもや保護者は安心します。





先生が考えている“待つ”
とはどんなことですか。

保護者や子どもと話し合いを持った後、
一か月くらい待つことが必要だと思います。

一か月って長く感じますが、家庭では、お給料
一回分で、そんなに長くないんです。家族で
気持ちを整理するのに必要な時間だと思います。





待つことで、その後はどうなりますか。

気持ちが整理されて、納得できると、
家庭もいい方向に動き出します。

教育相談センターに電話して、相談に行った
お母さんがいました。互いに責め合って
悪くなっていた夫婦関係が、改善されたと
報告してくれたお父さんもいました。





なみちゃんの一言

- 特別支援学級への在籍変更は、子どもにとっても、保護者や家族にとっても、とても大切で大きな問題です。
- その決定は、時間をかけて、保護者の気持ちを配慮したていねいな説明が必要です。
- また、保護者がきちんと納得して、前向きに動き出せるまで待つこともとても大切なのですね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)